



令和6年度 果樹情報 第11号

(令和6年8月22日)



福島県農林水産部農業振興課

1 気象概況 (8月前半、果樹研究所)

平均気温は、第1半旬が27.7℃で平年より1.8℃高く、第2半旬が27.1℃で平年より1.4℃高く、第3半旬が28.0℃で平年より2.5℃高く経過しました。

この期間の降水量は25.0mmで平年比36%と平年より少なくなりました。日照時間は91.4時間で平年比92%と平年並でした。

2 土壌水分 (8月19日現在、果樹研究所)

8月19日時点の土壌水分(pF値:果樹研究所なしほ場:草生・無かん水)は、深さ20cmから深さ60cmまで全て2.9となっており、乾燥状態です(図1)。

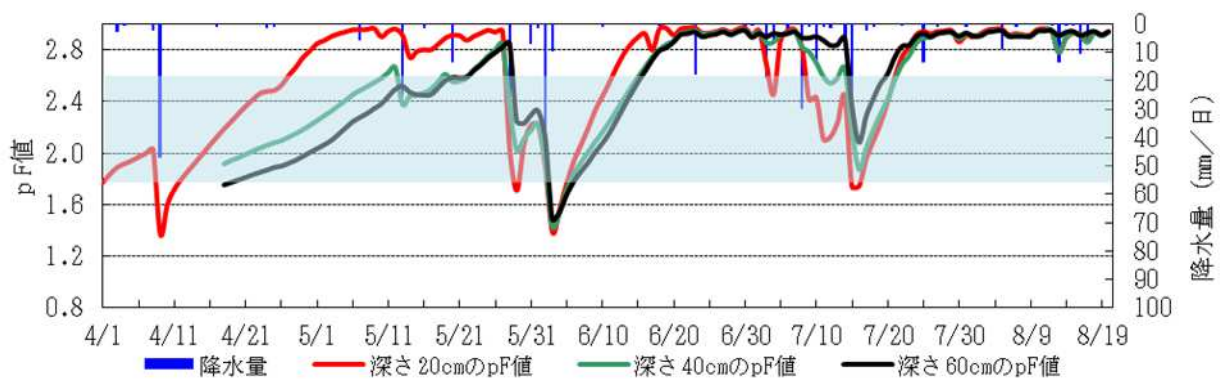


図1 土壌 pF 値の推移(果樹研究所なしほ場:草生・無かん水)
 図中の網掛け部は、適湿の範囲(pF1.8-2.6)

3 発育状況 (8月15日現在、果樹研究所)

(1) もも

ア 果実肥大

果実肥大を暦日で比較すると、「ゆうぞら」は縦径が84.8mm(平年比122%)、側径が90.1mm(平年比129%)と平年より大きい状況です。

満開後日数で比較すると、平年より大きくなっています。

イ 新梢生長

満開後120日における「ゆうぞら」の新梢長は18.6cm(平年比114%)と長く、展葉数は17.5枚(平年比113%)と多く、葉色は平年並となっています(表1)。新梢停止率は95.0%でした。

ウ 収穫状況

「まどか」の収穫盛期は8月3日で平年より10日早く、昨年より3日早くなりました。

果実の大きさは376gで平年より大きく、糖度は14.7° Brixで平年より高くなりました(表2)。

「川中島白桃」の収穫盛期は8月13日で平年より12日早く、昨年より3日早くなりました。

果実の大きさは361gで平年より大きく、糖度は14.3° Brixで平年より高くなりました。

「ゆうぞら」の収穫開始日は8月16日で平年より13日早くなっています。

表1 ももの新梢伸長(満開後120日)

品種	新梢長(cm)			展葉数			葉色(SPAD)			新梢停止率(%)		
	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比
ゆうぞら	18.6	16.3	114	17.5	15.5	113	46.7	46.3	101	95.0	94.7	100

注) 平年は、1996~2020年の平均値

表2 ももの収穫状況

品種	収穫開始日			収穫盛期			収穫終期			果実重(g)			糖度(° Brix)		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
はつひめ	6/28	7/ 6	6/29	7/ 2	7/ 9	7/ 3	7/ 4	7/13	7/ 6	303	264	291	12.7	11.8	11.3
日川白鳳	7/ 1	7/13	6/30	7/ 3	7/16	7/ 2	7/ 4	7/20	7/ 4	211	236	231	12.8	11.0	11.2
暁 星	7/ 8	7/21	7/10	7/10	7/25	7/12	7/11	7/29	7/14	211	221	234	14.0	13.0	13.6
ふくあかり	7/12	7/21	7/13	7/15	7/27	7/18	7/16	7/31	7/21	306	266	262	12.8	13.0	13.1
あかつき	7/19	7/31	7/21	7/22	8/ 4	7/25	7/29	8/ 9	7/31	343	269	328	13.2	13.0	12.8
まどか	8/ 1	8/ 9	8/ 3	8/ 3	8/13	8/ 6	8/ 5	8/18	8/10	376	350	341	14.7	13.7	14.3
川中島白桃	8/ 9	8/22	8/15	8/13	8/25	8/16	8/16	8/29	8/21	361	354	359	14.3	13.0	14.8
ゆうぞら	8/16	8/29	8/22	未	9/ 2	8/25	未	9/ 7	8/31	未	339	383	未	13.0	13.4

注) 平年値は、1991～2020年(「はつひめ」「ふくあかり」は2009年～2020年)の平均

(2) なし

ア 果実肥大

果実肥大を暦日で比較すると、「豊水」は縦径が80.3mm(平年比120%)、横径が92.9mm(平年比122%)と平年より大きい状況です。

満開後日数で比較すると、平年より大きくなっています。

イ 収穫状況

「幸水」の収穫開始日は8月13日で平年より11日早くなっています。

果実の大きさは398gで平年並、糖度は13.1° Brixで平年並となっています(表3)。

表3 なしの収穫状況

品種	収穫開始日			収穫盛期			収穫終期			果実重(g)			糖度(° Brix)		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
幸 水	8/13	8/24	8/14	未	8/29	8/20	未	9/ 4	8/24	<u>398</u>	382	451	<u>13.1</u>	12.5	12.5
豊 水	未	9/12	9/ 4	未	9/17	9/12	未	9/24	9/14	未	423	550	未	12.9	14.0
二十世紀	未	9/17	9/11	未	9/21	9/12	未	9/25	9/14	未	402	452	未	11.1	12.0
あきづき	未	9/25	9/14	未	9/28	9/21	未	10/3	9/25	未	462	512	未	13.0	14.2
ラ・フランス	未	10/4	9/27	未	10/4	9/27	未	10/7	9/27	未	294	383	未	12.9	13.3

注) 平年値は、1991～2020年の平均。未は未確定。下線部は収穫始の果実品質(参考値)

(3) りんご

ア 果実肥大

果実肥大を暦日で比較すると、「つがる」は縦径が76.4mm(平年比105%)、横径が84.1mm(平年比101%)、「ふじ」は縦径が69.9mm(平年比105%)、横径が75.4mm(平年比103%)と両品種とも平年並の状況です。

満開後日数で比較すると、両品種とも平年並となっています。

イ 成熟状況

満開後107日(8月8日)における「つがる」の成熟状況は、硬度が14.8ポンド、デンプン指数は1.3、糖度は11.0° Brix、リンゴ酸は0.30g/100mlとなっています(図2、3)。

満開後日数での比較では、果皮中アントシアニン含量が平年より低く、果皮中クロロフィル含量は平年よりやや高く推移しています(図4、5)。

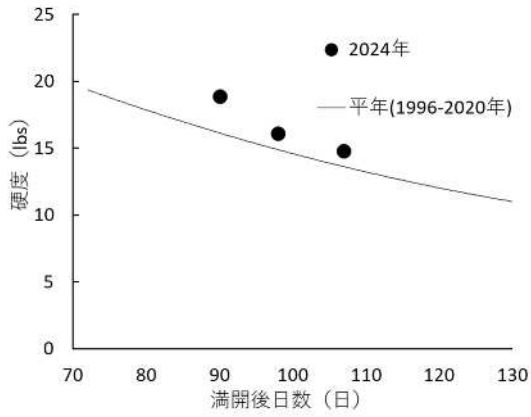


図2 「つがる」の果実硬度の推移

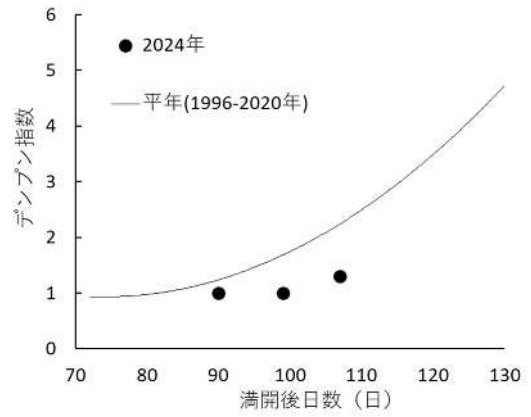


図3 「つがる」のデンプン指数の推移

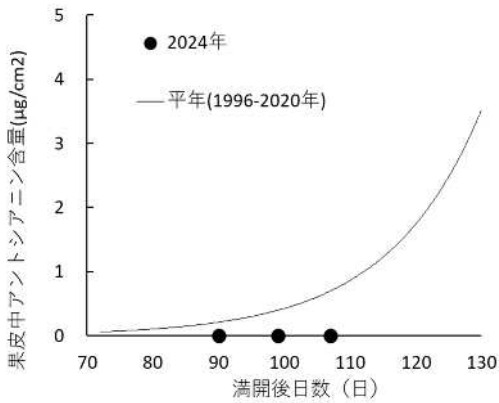


図4 「つがる」の果皮中アスコルビン酸含量の推移

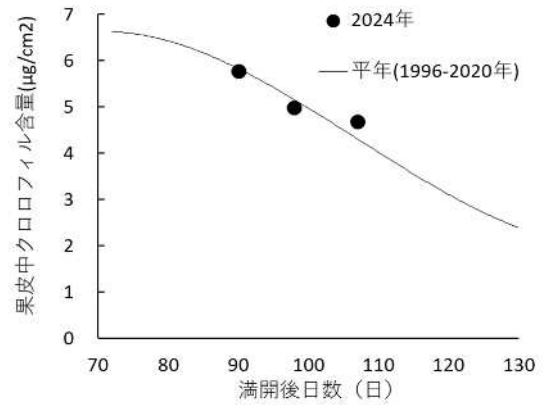


図5 「つがる」の果皮中クロロフィル含量の推移

(4) ぶどう

ア 成熟状況

満開後 79 日（8 月 9 日）における「巨峰」の成熟状況は、果皮色が 7.4、糖度が 16.8° Brix、酒石酸含量が 0.71g/100ml、糖酸比が 23.6 となっています（図 6～9）。

暦日で比較すると、糖度がやや高く、酒石酸含量は低い傾向です。

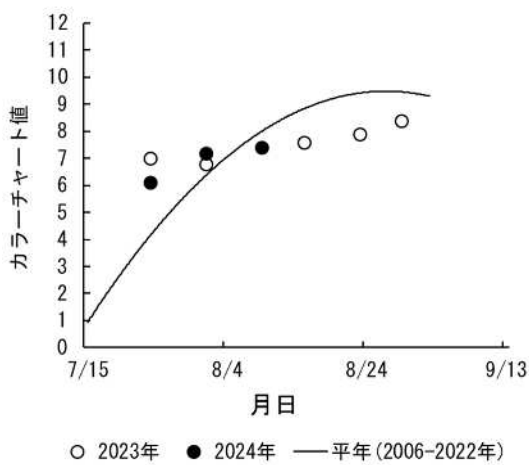


図6 「巨峰」の果皮色の推移

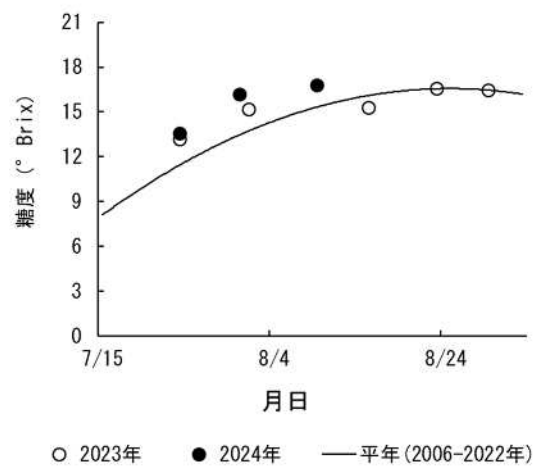


図7 「巨峰」の糖度の推移

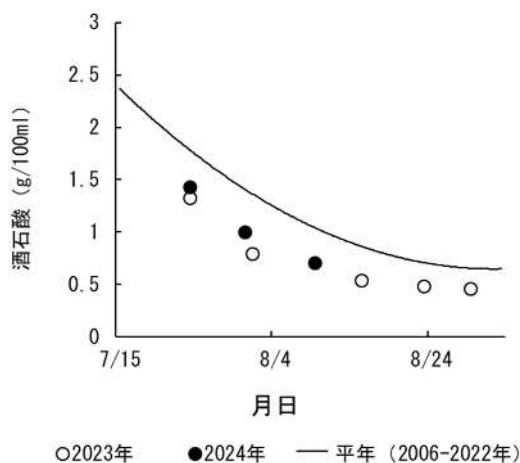


図8 「巨峰」の酒石酸含量の推移

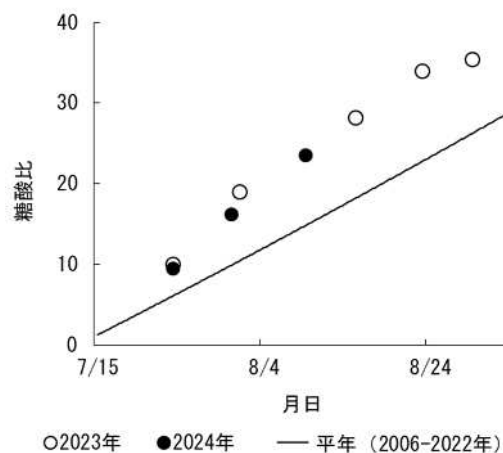


図9 「巨峰」の糖酸比の推移

4 栽培上の留意点

台風第5号、台風第7号が本県付近を通過しましたが、降水量には地域差があります。果樹研究所におけるこの期間の降水量は42.5mmですが、8月19日現在では土壌が乾燥状態にあることから、各園地の状態に応じて適切な対策を実施しましょう。

また、8月15日に発表された1か月予報では、今後の平均気温は高い確率70%と予想されており、特に期間の前半はかなり高くなると見込まれています。

高温・乾燥状態が続く場合には、速やかにかん水を実施しましょう。

(1) 共通

ア 乾燥傾向の園地

5月から夏期にかけて果樹園からの1日当たりの蒸発散量は、晴天日で6～7mm、曇天日で2～3mm、平均で4mm程度のため、1回のかん水は25～30mm程度(10a当たり25～30t)を目安とし、5～7日間隔で実施しましょう。保水性が劣る砂質土壌などでは、1回のかん水量は少なくして、かん水間隔を短くしましょう。

樹と草との水分競合を防ぐため、草生園では草刈りを行いましょう(地表面からの蒸発散量は、草生園において刈り草をマルチした場合、草刈りしない場合の約半分とされます)。

また、刈り草や稲わらのマルチを行い、土壌水分の保持に努めましょう。

イ 過湿傾向の園地

土壌の過湿は葉の褐変や黄変落葉を引き起こす原因となるので、停滞水が発生しやすい園地では排水対策を徹底しましょう。また、落葉した場合は、葉枚数や葉面積に応じた着果量の見直しを行いましょう。

ウ 高温期間中の収穫作業

果実温が高いと日持ち性が低下しますので、収穫は果実温が低い朝のうちに行いましょう。また、収穫後は直射光の当たらない涼しい場所に保管し、速やかに出荷調整を行いましょう。

(2) もも

ア 晩生品種の収穫前管理

今後、晩生品種については適期に修正摘果を実施するとともに、夏季せん定や支柱立て、枝吊り、反射シートの設置など収穫前の管理を計画的に実施しましょう。また、強風や多雨による枝折れに注意しましょう。有袋栽培では、適期に除袋するとともに、着色管理作業も計画的に行いましょう。

(3) なし

ア 「幸水」の収穫

「幸水」の品種特性として、収穫盛期の降雨などにより急激に土壌水分が増加した後は果皮中クロフィルや果肉硬度の低下が急激に進むので、収穫が遅れないように注意しましょう。

収穫基準は、全農福島作成「幸水」用カラーチャートの1.5～2を目安にし、適期収穫に努めましょう。

なお、収穫時の果実温度が高いと果肉軟化が促進され芯腐れ果の発生につながりやすいので、気温の低い時間帯に収穫し、収穫後は涼しい場所に保管しましょう。

(4) りんご

ア 早生種の収穫前管理

気温の高い日が続いていることから、日焼け果の発生が確認されています。葉摘みは、日焼け果の発生状態を確認しながら数回に分けて行いましょう。

イ 落果防止剤散布

「つがる」の落果防止剤としてストップボール液剤を用いる場合には、収穫開始予定日などの農薬使用基準に十分注意して散布しましょう。

ウ 修正摘果

中・晩生品種は、果実の大きさ、果形、サビ、日焼けの有無等をよく見て修正摘果を行いましょ

(5) ぶどう

ア 収穫適期の把握

収穫時期は品種、地域、樹勢、房型や着房量によって異なりますので、果皮色や食味（特に糖酸比）、香り等について総合的に判断し、適期収穫を心がけましょう。

イ 収穫時の留意点

- a 雨の日やその直後の果実は糖度が低く、日持ちも悪い傾向にあります。収穫前の2～3日が晴天で、当日も晴れている日に収穫するように心がけましょう。
- b 収穫は、日持ちを向上させる目的で果実温度の低い早朝などに行いましょう。
- c 主枝の先端や日当たりが良く登熟が進んだ枝の果実は成熟が早いため、優先して収穫しましょう。
- d 果粉を落とさないため、収穫果実は穂軸を持ち、果粒に直接触らないように注意しましょう。

5 病害虫防除上の留意点

高温が続いています。薬害発生を防止するため、薬剤散布は、高温時を避けて早朝または夕方に実施しましょう。また、急な雷雨に備えて気象情報に留意し、防除タイミングを逃さないようにしましょう。

(1) 病害

ア リンゴ褐斑病

病害虫防除所による7月中下旬の発生調査では、本病の発生ほ場割合は、中通りで平年よりやや高い状況でした（令和6年7月30日付け病害虫防除情報）。褐斑病の感染、発病が増加する時期であるため注意が必要です。本病の発生が多い場合は、中・晩生品種を対象にユニックス顆粒水和剤47を2,000倍で使用しましょう。

薬剤散布前には徒長枝の整理等の新梢管理を行い、薬剤の散布むらをなくしましょう。

イ ナシ黒星病

本病の発生が多い園地では、秋期防除として「幸水」収穫後にトリフミン水和剤を3,000倍、またはフルーツセイバーを3,000倍で使用しましょう。なお、薬剤耐性菌の出現を防止するため、同一系統薬剤の使用回数に十分注意してください。また、発生が少ない園地では今回の防除を省略することができます（参考：令和4年度普及に移しうる成果（<https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/566356.pdf>））。

(2) 虫害

ア モモハモグリガ

第5世代成虫の誘殺盛期は8月5半旬ごろと予測され、第6世代幼虫の防除適期は8月5～6半旬と推定されます(表4)。

本種の発生は、放任園や無防除のハナモモ等が影響していると考えられるため、こうした発生源が近隣にある園地では、今後も発生に注意しましょう。

イ ナシヒメシンクイ

病害虫防除所による7月中下旬の発生調査では、本種によるモモ新梢の芯折れ被害発生ほ場割合が6割程度と平年より高く、例年この時期に確認されていない「中」発生のほ場が多数確認されているため、特に注意しましょう(令和6年7月30日付け令和6年度病害虫防除情報)。

また、果樹研究所内において、もも、なしの果実被害が確認されています。

第4世代成虫の誘殺盛期は、今後の気温が2℃高く推移した場合、8月6半旬ごろと予測され、第5世代幼虫の防除適期は、9月1半旬ごろと推定されます(表4)。

本種は、もも等の核果類の新梢伸長が停止すると、なし果実への寄生が増加します。例年、なしの果実被害が多い地域では、近隣のもも等における防除も徹底しましょう。

ウ カイガラムシ類

例年、ウメシロカイガラムシ第2世代幼虫の防除適期は8月上旬から中旬ごろ、クワコナカイガラムシ第2世代幼虫の防除適期は8月下旬から9月上旬ごろとなっています。カメムシ類対策等で合成ピレスロイド剤やネオニコチノイド剤等を多く使用している園地では、天敵類の減少によるカイガラムシ類の増加に注意し、発生状況に応じて防除を行いましょう。

エ ハダニ類

高温期は増殖が速いので、ハダニ類の発生状況をよく確認し、要防除水準(1葉当たり雌成虫1頭以上)の密度になったら速やかに防除を行いましょう。

オ カメムシ類

飛来状況をよく観察し、多数の飛来がみられる場合には速やかに防除を行いましょう。

本年は、防除所のフェロモントラップ調査で全ての調査地点で例年より多く誘殺されています。もも、なし、りんごともに果実被害が確認されているため、飛来状況に注意しましょう(令和6年7月30日付け令和6年度病害虫発生予察情報 注意報 第3号)。防除にあたっては、果樹情報特別号「果樹カメムシ類の防除対策」(8月1日発行)を参考にして、地域一体となって取り組みましょう。

表4 果樹研究所における防除時期の推定(令和6年8月14日現在)

今後の 気温予測	モモハモグリガ		ナシヒメシンクイ	
	第5世代 誘殺盛期	第6世代 防除適期	第4世代 誘殺盛期	第5世代 防除適期
2℃高い	8月22日	8月25日	8月30日	9月5日
平年並	8月22日	8月26日	9月1日	9月9日
2℃低い	8月23日	8月28日	9月4日	9月14日

起算日：モモハモグリガ 第4世代誘殺盛期 8月2日(予測値)

ナシヒメシンクイ 第3世代誘殺盛期 8月6日(予測値)

(演算方法は三角法)

病虫害の発生予察情報・防除情報

病虫害防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

URL: <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。

福島県農薬危害防止運動を実施中

■農薬使用基準の遵守 ■農薬飛散防止対策の徹底 ■住宅地等における農薬適正使用の推進
実施期間：6月10日から9月10日まで。農薬による事故等の未然防止に努めましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 農業革新担当 TEL 024(521)7344
(以下のURLより他の農業技術情報等をご覧ください。)

URL: <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>